

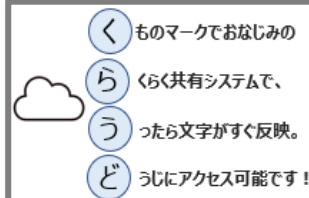
「一人ひとりが自ら学ぶ力」の育成～クラウドの活用～

東大阪市では、「ICT を活用した教育の推進に関する基本方針」に基づき、『個別最適な学び』『他者とつながり互いに高めあう学び』『創造し表現する学び』を通して、「一人ひとりが自ら学ぶ」子どもを育成することをめざしています。



現在、社会では新型コロナウイルスの影響もあり、「働き方」が大きく変化してきています。例えば、事務的な仕事の場面では、資料等をクラウド上で共有し、所属する会社（組織）や取引先等の外部の方と、いつでもどこでも作業や確認ができるような就労環境になってきています。

学校では《GIGA スクール構想 2 年目》を迎え、「授業」の在り方そのものが大きく変化してきています。今回は、クラウドを活用した子どもたちの新しい「学び方」を紹介します。



「深い学び」につながるクラウド活用 ～全員の意見を瞬時に共有～



子どもたちが普段授業で使っている学習支援アプリ、ロイロノート・スクールには、「共有ノート機能」があります。「共有ノート」は、文字通り「みんなで作るノート」です。クラス全員やグループで「共有ノート」を作成すると、クラウド上で共有されているので、書き込みや修正した内容が、ノートを共有している全員の iPad に反映されます。自分の考えをまとめながら、お互いの進み具合や考えを確認でき、「思考の過程」を共有することができます。みんなの前で発言することが苦手な子どもの意見も、全員で共有できます。

例えば、自分に割り当てられたスライドの課題に取り組む（写真1）一方で、全部のスライドを表示する画面（写真2）に切り替えると、全員の作業状況を iPad でリアルタイムに確認できます。学習が苦手な子どもたちにとっても、友達の学びの過程がヒントとなります。また、自分が「何に躓いているか」もわかりやすくなり、子どもたち同士で学び合いながら課題に取り組めます。



授業でクラウドを活用すると、「一人で考える」「考えを発信する」「友達の見解から学ぶ」ことが同時に行え、子どもは学習状況に応じて学び方を選択できます。「〇〇さんと答えが一緒なのに、考え方が違う」「〇班さんの意見を参考にしたことで、考え方が変わった」など、学びが深まります。